

第4節 注目すべき生物種の現状と博覧会開催による影響

1 注目すべき生物種の現状

(1) 注目すべき植物種

愛知青少年公園においてこれまでに実施した現地調査で確認された植物種は、399種であった。そのうち、注目すべき植物種は表3-4-1に示したとおり、15種であった。

注目すべき植物種のうち、モンゴリナラ、カンアオイ類以外の植物種の分布について、それらの種が集中的に分布する場所を原則として生育確認地の外郭線をひくことにより抽出し、注目すべきエリアとして図3-4-1に示した。(現況の愛知青少年公園施設配置については付録-1参照)

分布状況において特徴的な点は、次のとおりである。

- ・ かえで池南側に比較的まとまった面積で残存する貧栄養湿地内にシラタマホシクサ、サギソウが群生する他は、地下水のしみ出しが見られるところで、シラタマホシクサ、シマジタムラソウ、ミズギボウシ等周伊勢湾要素と呼ばれる植物種が僅かに生育するにとどまっている。
- ・ 稜線部の砂礫の露出地には、乾燥した砂礫地の環境の指標となるウンヌケが点在している。
- ・ かえで池の水際の湿潤地にヒナザサの個体群が1箇所で見られる他、浅水域にはタチモが数箇所、シズイ、クロイヌノヒゲが1箇所で大規模な個体群が生育している。
- ・ かえで池の上流側に隣接するめだか池の縁にはキキョウの個体群が確認されている。

また、注目すべき種のうち、モンゴリナラ、カンアオイ類については、愛知青少年公園内の二次林域内に広く、ほぼ均等に分布していることから、二次林域の分布状況と重ねて図3-4-2に示した。

- ・ モンゴリナラは、特にレッドリスト等において絶滅の危険性が指摘される種ではないが、分類学上、様々な論議を呼んでいる種であり、我が国では北海道、北関東、東海地方に隔離分布しており、東海地方においては愛知青少年公園を含む周辺一帯に最もまとまって分布している。学術上の面からも分布特異性の面からも、モンゴリナラは本地区を特徴づける重要な種といえる。
- ・ カンアオイ類については、スズカカンアオイが森林域内に広く分布しているが、ヒメカンアオイは数箇所を確認されたにとどまっている。

表3-4-1 現地調査において確認した注目すべき植物種

種名	科名	注目すべき理由(抽出根拠 ^{*1})				確認位置図
		レッドリスト	愛知県レッドリスト	県保全調査	その他	
シマジタムラソウ	シソ	絶滅危惧 類	固有			図3-4-1
キキョウ	キキョウ	絶滅危惧 類	付記			
シラタマホシクサ	ホシクサ	絶滅危惧 類	固有			
ウンヌケ	イネ	絶滅危惧 類	危急			
サギソウ	ラン	絶滅危惧 類	危急			
タチモ	アリノトウグサ	準絶滅危惧	国リスト			
ヒメコヌカグサ	イネ	準絶滅危惧	全国的に危急			
ヒナザサ	イネ		危急			
シズイ	カヤツリグサ		危急			
クロイヌノヒゲ	ホシクサ		希少			
スズカカンアオイ	ウマノスズクサ					
ヒメカンアオイ	ウマノスズクサ					
モンゴリナラ	ブナ					
ミズギボウシ	ユリ					図3-4-1
エンシュウムヨウラン	ラン					

*1: 抽出根拠の略称について

「レッドリスト」: 「植物版レッドリスト」(1997、環境庁)

「愛知県レッドリスト」: 「愛知県維管束植物レッドリスト」(1998、愛知県植物誌調査会)

「県保全調査」: 「保全を要する自然環境要素分布調査報告書」(1989、愛知県農地林務部)

「その他」: 上記に該当する種以外で地元有識者に保全重要性を指摘された植物種



図3-4-1 注目すべき植物種（モンゴリナラ・カンアオイ類以外）の確認位置
及び注目すべきエリア

○ 注目すべき植物種確認位置

シマジタムラソウ	ヒメコヌカグサ
キキョウ	ヒナザサ
シラタマホシクサ	シズイ
ウンヌケ	クロイヌノヒゲ
サギソウ	ミズギボウシ
タチモ	エンシュウムヨウラン





● 注目すべきエリア

○ 愛知青少年公園

注) 保護上の観点から、種名ごとの凡例は図示しなかった。



図3-4-2 注目すべき植物種確認位置（モンゴリナラ・カンアオイ類）及び二次林域

-  モンゴリナラ
-  カンアオイ類
-  二次林域
-  愛知青少年公園

(2) 注目すべき動物種

愛知青少年公園においてこれまでに実施した現地調査で確認された動物種は、哺乳類が 4 目 5 科 5 種、鳥類が 14 目 28 科 75 種、両生類が 1 目 3 科 4 種、爬虫類が 2 目 3 科 5 種、魚類が 2 目 3 科 9 種、昆虫類が 12 目 91 科 277 種であった。

そのうち注目すべき動物種は表 3 - 4 - 2 に示したとおり、鳥類 12 種、魚類 2 種、昆虫類 8 種の計 22 種であり、それらの確認位置を図 3 - 4 - 3 ~ 5 に示した。

表 3 - 4 - 2 現地調査において確認した注目すべき動物種

類別	種名	科名	注目すべき理由（抽出根拠）*1			
			種の保存法	レッドリスト	県保全調査	その他
鳥類	オオタカ	タカ		絶滅危惧 類		
	ハチクマ	タカ		準絶滅危惧		
	ハイタカ	タカ		準絶滅危惧		
	カワセミ	カワセミ				
	アオゲラ	キツツキ				
	ヨタカ	ヨタカ				昆虫食・個体数減少
	アカゲラ	キツツキ				昆虫食・個体数減少
	コゲラ	キツツキ				昆虫食・個体数減少
	キビタキ	ヒタキ				昆虫食・個体数減少
	センダイムシクイ	ヒタキ				昆虫食・個体数減少
	ヤブサメ	ヒタキ				昆虫食・個体数減少
	オオルリ	ヒタキ				昆虫食・個体数減少
魚類	カワバタモロコ	コイ		絶滅危惧 B 類		
	ホトケドジョウ	ドジョウ		絶滅危惧 B 類		
昆虫類	ギフチョウ	アゲハチョウ		絶滅危惧 類		指標
	ベニイトトンボ	イトトンボ		絶滅危惧 類		特定 C
	ハッチョウトンボ	トンボ				指標
	ハルゼミ	セミ				指標
	オグマサナエ	サナエトンボ				特定 C
	ヨツメトビケラ	フトヒゲトビケラ				特定 B
	ヒメタイコウチ	タイコウチ				特定 B・D
	ミカワオサムシ	オサムシ				特定 B・G

*1：抽出根拠の略称について

「種の保存法」：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成 4 年）

「レッドリスト」：「両生類・は虫類のレッドリスト」（1997 年、環境庁）「哺乳類及び鳥類のレッドリスト」（1998 年、環境庁）「汽水・淡水魚類のレッドリスト」（1999 年、環境庁）「無脊椎動物（昆虫類、貝類、クモ類、甲殻類等）のレッドリスト」（2000 年、環境庁）

「県保全調査」：「保全を要する自然環境要素分布調査」（1989 年、愛知県）

「その他」：鳥類については学識経験者判断による

：昆虫類については「第 2 回自然環境保全基礎調査」（1981 年、環境庁）の調査対象種をあげた。「指標」は指標昆虫類を、「特定」は特定昆虫類を示す。ただし、アオマツムシについては「特定 B」に指定されているが、帰化昆虫であり、当該地域の自然を指標する種として適切と思われなため、注目すべき種から除いた。

A：日本国内ではそこにしか産しないと思われる種 B：分布域が国内の若干の地域に限定されている種

C：普通種であっても、南限・北限などの分布限界になると思われる産地に分布する種

D：当該地域において絶滅の危機に瀕している種 E：近年当該地域において絶滅したと考えられる種

F：業者あるいはマニアなどの乱獲により、当該地域での個体数の著しい減少が心配される種

G：環境指標として適当であると考えられる種

ア 鳥類

注目すべき鳥類としてはオオタカ、ハチクマ、ハイタカ、カワセミ、アオゲラなど 12 種が確認され、猛禽類以外の注目すべき鳥類についての繁殖可能性ランク別の確認位置及び巣の確認位置は図 3 - 4 - 3 に示した。

同図にはこれまでの調査結果から森林性鳥類の繁殖場所として利用されている可能性の高い落葉広葉樹林域とカワセミの採餌場所として利用されている可能性の高い水域の愛知青少年公園内での分布状況を、上記の鳥類に関する確認位置に重ねて示した。

繁殖可能性に関するランク区分において 4 以上の「確実に」もしくは「たぶん繁殖している」と判断される繁殖兆候が観察された種は、キビタキのみであり、キビタキについては巣立ち間もないヒナが確認されたことから、愛知青少年公園内で繁殖しているものと思われる。また、キツキ類の巣と思われる穴は 8 箇所を確認され、そのうち 1 箇所はアオゲラの巣穴位の大きさ、その他の 7 箇所はコゲラの巣穴位の大きさであった。その他の鳥類の営巣に関する情報は得られなかった。

なお、オオタカについては、平成 12 年 1 月から 8 月までの定点調査では愛知青少年公園内や周辺でもしばしば飛翔が確認されており、ハンティング・止まり行動なども見られた。また、公園内で猛禽のものと思われる食痕も 9 箇所（さらに愛知県の調査で 2 箇所）確認されており、餌生物は主にドバト、カラスであった。なお、平成 12 年 6 月に愛知県の調査により青少年公園地区外で新たにオオタカの営巣が確認され、7 月に 3 羽の幼鳥の巣立ちが確認された。愛知青少年公園内で確認されたオオタカのハンティング・止まり行動及び猛禽類の食痕確認位置は図 3 - 4 - 4 に示した。

その他の猛禽類について、平成 11 年の海上地区及びその周辺を対象とした定点調査結果から、ハチクマの飛翔が 6 ~ 8 月に数回、ハイタカの飛翔が 3 月に 1 度確認された。平成 12 年の定点調査では、ハイタカが 1 月と 2 月に数回、ハチクマが 5 月以降頻繁に確認されている。なお、両種とも、愛知青少年公園及びその周辺での営巣は確認されなかった。

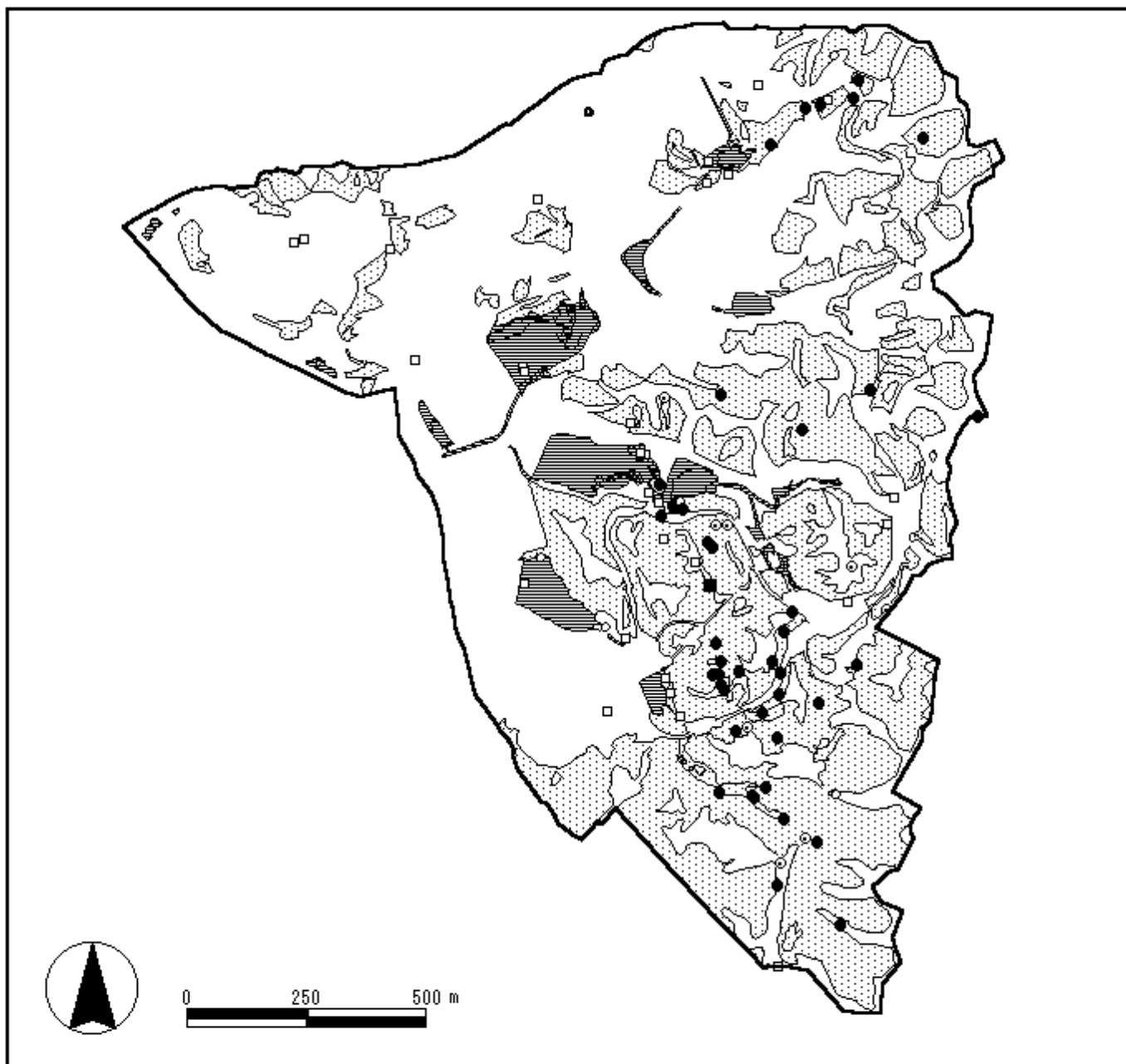





図3-4-3 猛禽以外の鳥類の繁殖可能性ランク別確認位置と巣の位置及び
落葉広葉樹林域、水域の分布状況

- 繁殖可能性ランク4 (たぶん繁殖している)
- 繁殖可能性ランク3 (繁殖の可能性あり)
- 繁殖可能性ランク2 (繁殖について何とも言えない)
- 繁殖可能性ランク1 (繁殖しないを可とする) または繁殖に関する情報なし
- ◎ 巣 (キツキ類)

-  落葉広葉樹林域
-  水域
-  愛知青少年公園

注：繁殖可能性ランク別確認位置については、平成11年3月から7月までの調査結果に基づく。

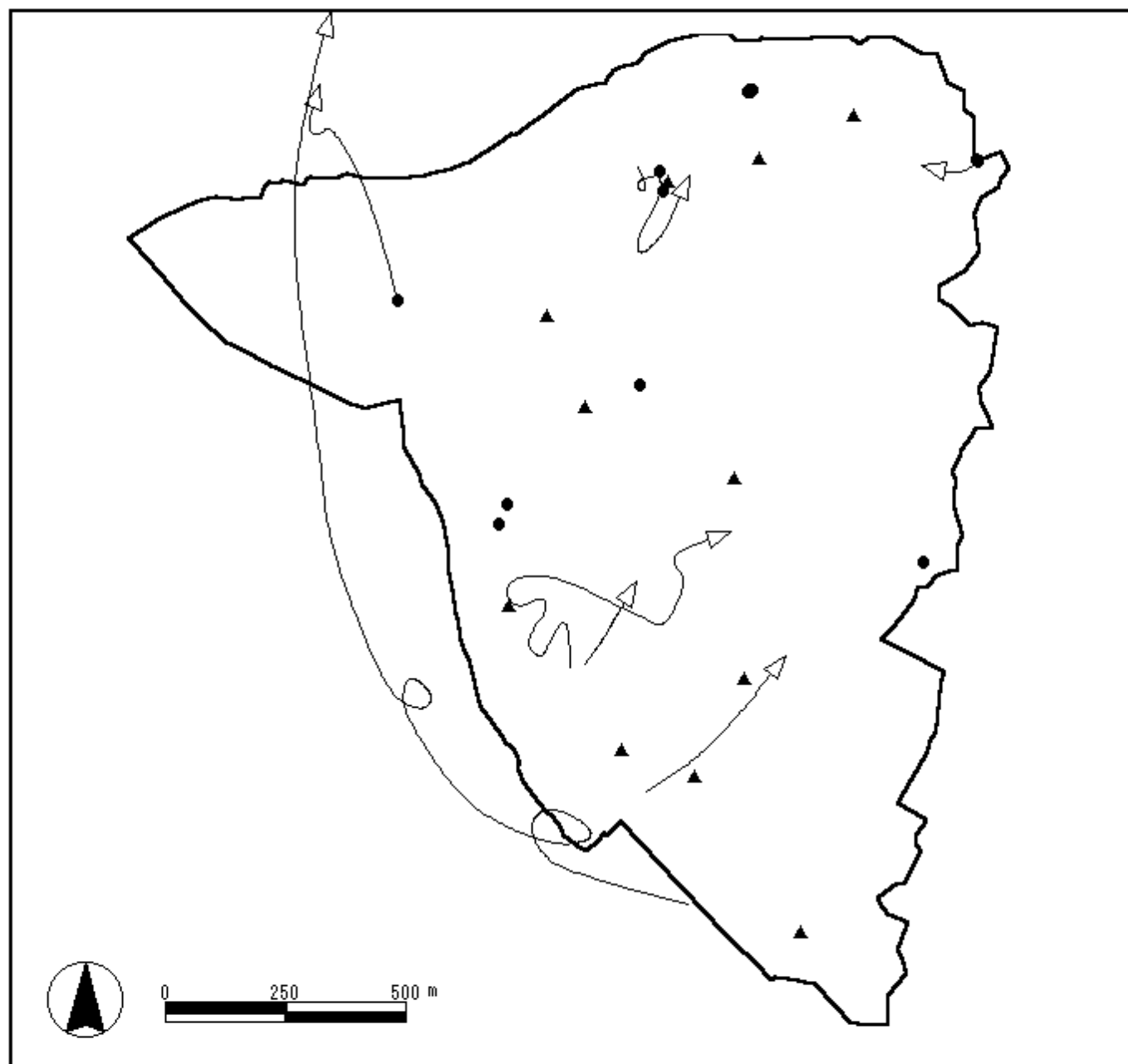


図3-4-4 オオタカのハンティング・とまり行動及び猛禽類の食痕確認位置

- ▷ ハンティングを行ったときの飛翔ルート
- とまり位置
- ▲ 猛禽類の食痕確認位置
- 愛知青少年公園

注：ハンティングを行ったときの飛翔ルートについては、始点と終点の少なくとも一方が余場校補地（青少年公園地区）内にあるもののみ示した。

イ 魚類・昆虫類

注目すべき魚類としてはホトケドジョウ、カワバタモロコの 2 種の生息が確認された。ホトケドジョウについては、めだか池の東にある池とかきつばた池、かめの池、公園南部の未改変域の沢部で確認され、カワバタモロコは、かめの池とめだか池南東の池で確認された。

注目すべき昆虫類としては、海上地区で詳細調査を行ったギフチョウ、ハッチョウトンボや、この地域を特徴づける種の一つであるヒメタイコウチのほか、ベニイトンボ、ハルゼミ、オグマサナエ、ヨツメトビケラ、ミカワオサムシの 8 種が確認された。

ハッチョウトンボはささ池、かきつばた池、めだか池東の池、公園南部の未改変域の沢部で確認された。ヒメタイコウチはささ池、かきつばた池、かめの池で確認された。またベニイトンボはささ池で、ハルゼミは児童遊園地付近の林内で、オグマサナエとヨツメトビケラはかめの池でそれぞれ確認された。ミカワオサムシはめだか池、第二キャンプ場、児童総合センター付近で確認された。

ギフチョウは公園の中央より北側ではかえで池北の尾根で成虫を少数個体確認したのにとどまったのに対し、南側では成虫及び卵が広く分布しており、特に南端の残置森林部分には卵が多く確認された。確認個体数の内訳は表 3 - 4 - 3 に示したとおりである。なお、本調査期間中には幼虫は確認されなかった。

なお、注目すべき魚類及び昆虫類の確認位置及びギフチョウの確認頻度の高いエリア（ギフチョウについては保護上の観点から確認位置については示さない）を図 3 - 4 - 5 に示した。同図には、魚類やトンボ類の生息環境として重要な水域とギフチョウの食草となるカンアオイ類の分布状況を重ねて示した。

表 3 - 4 - 3 ギフチョウ確認個体数

地 区	成 虫						卵	
	4月6日	4月7日	4月12日	4月13日	4月14日	地区計	卵塊数	卵数
北地区	0	0	0	1	1	2	0	0
南地区	0	0	4	11	3	18	77	518
調査日計	0	0	4	12	4	20	77	518

注) 数字はのべ確認個体数

北地区と南地区は、かえで池及びめだか池北側の道路で区分した。



図3-4-5 注目すべき魚類・昆虫類の確認位置とギフチョウの確認頻度の高いエリア及び水域とカンアオイ類分布域

- | | | |
|------------------|--|--|
| <p>■ 魚類</p> | カワバタモロコ
ホトケドジョウ | <p>○ (点線) ギフチョウの確認頻度の高いエリア</p> <p>○ (斜線) カンアオイ類</p> <p>○ (白) 愛知青少年公園</p> |
| <p>▲ 昆虫類</p> | ベニイトトンボ
ハッチョウトンボ
ハルゼミ
オグマサナエ
ヨツメトビケラ
ヒメタイコウチ
ミカワオサムシ | |
| <p>○ (斜線) 水域</p> | | |

注) 保護上の観点から、種名ごとの凡例は図示しなかった。

2 博覧会開催による影響

(1) 現会場計画による影響

会場計画の策定に当たっては、既改変地をなるべく利用し、新たな造成をなるべく避け、造成する場合でも既に利用されている場所に限った。また、愛知青少年公園の将来計画と極力整合の取れた会場計画とするため、既施設の利用等に努めることを基本方針とした。

したがって、注目すべき生物種の確認地が集中している水辺・水域に関しては、水域や流路への直接改変や集水域の変更を伴うような周辺地形の改変は行わない。なお、注目すべき生物種の確認位置は図3-4-6に示した。

オオタカについては、国際博会場関連オオタカ調査検討会において、今までの調査結果、営巣地からの距離や施設などの配置状況から、現段階の会場計画では営巣環境に大きな影響を与えないと判断された。また、2営巣期の調査を実施し、その結果を踏まえ具体的な会場計画の段階で必要な検討を行うものとしている。

上記の検討により、愛知青少年公園の現段階における会場計画の土地利用の考え方や主要施設の配置における基本方針は、同地区内の注目すべき生物種への影響を回避する観点から、概ね妥当なものであると判断されるが、今後の会場計画の具体化に当たっては、局部的、間接的影響の低減に努めることとする。

また、愛知青少年公園は博覧会の会期終了後も引き続き公園として利用されることから、今後の会場計画の検討に当たっては、愛知青少年公園の将来計画と極力整合のとれた計画となるよう、関係機関と調整を図っていくこととする。

(2) 今後の会場計画の具体化に当たっての主な検討課題

- ・ 踏圧等の防止
- ・ 排水による負荷増大の防止
- ・ 鳥類の繁殖環境への配慮
- ・ 林分の大幅な分断の防止
- ・ 適正な森林整備

なお、オオタカに関しては、国際博会場関連オオタカ調査検討会の検討状況に応じ適切な措置を講じることとする。



図3-4-6 注目すべき生物種（モンゴリナラ・カンアオイ類を除く）の確認位置

● 注目すべき生物種の確認位置（モンゴリナラ・カンアオイ類を除く）

水域

愛知青少年公園

第5節 触れ合い活動の場の現状と博覧会開催による影響

1 触れ合い活動の場の現状

(1) 愛知青少年公園の概況

愛知青少年公園は、サイクリング施設、冒険ひろば、キャンプ場、大芝生苑、オリエンテーリングコース、ウォーキングコース等の野外レクリエーション施設をはじめ、スポーツ施設、文化施設等が多数整備された名古屋市近傍の大規模な公園緑地であり、周辺の都市緑地や森林公園等と並び親しまれている。

なお、愛知青少年公園周辺の注目すべき触れ合い活動の場としては、「岩屋堂公園、東海自然歩道（猿投山一帯）、愛知県昭和の森、愛知県緑化センター」等が挙げられるが、愛知青少年公園は、これらから概ね5 km以上離れた箇所に位置する。

愛知青少年公園の近年の入園者数は、以下の図3-5-1のとおりであり、240万～290万人/年で概ね横ばいで推移しており、県内公営公園緑地中で最大の入園者を有している。また、月別では図3-5-2のとおり、5月の約36万人を最高にゴールデンウィーク、夏休み～10月に利用が集中する傾向にあり、概ね春から秋の3シーズンを中心に利用されている。

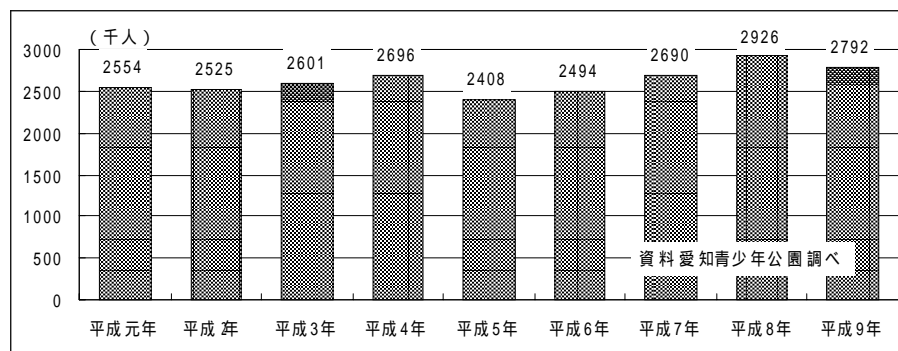


図3-5-1 愛知青少年公園の近年における入園者数の推移

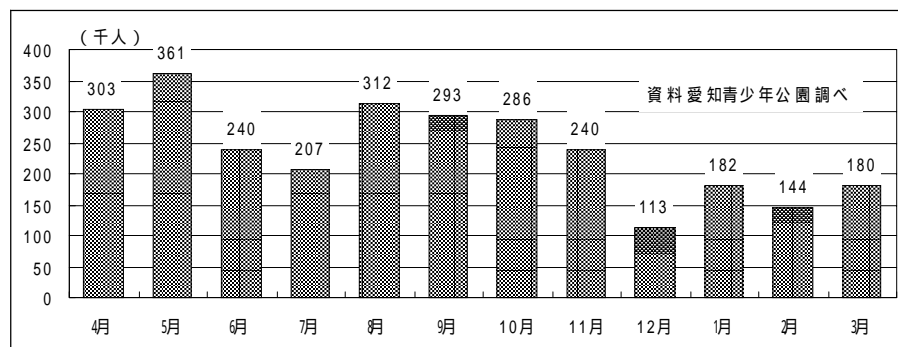


図3-5-2 愛知青少年公園の月別入園者数（平成9年度）

(2) 愛知青少年公園内の注目すべき触れ合い活動の場

愛知青少年公園内の既存施設のうち、「自然との触れ合い活動」に関連するものとして、公園内の広場・園路等の分布状況や周辺環境の状況、そこから想定される利用形態等に基づき、以下の表3-5-1及び図3-5-3に示すエリアを注目すべき触れ合い活動の場として抽出した。

備考：テニスコート、サッカー場、野球場等のスポーツ施設で行われる活動については、一定のルールに則ったコートやグラウンドに依存して行われる「スポーツ活動」であり、周囲の自然環境等に依存したいわゆる「自然との触れ合い活動」とは一線を画すものであることから、注目すべき触れ合い活動の場としては取り扱っていない。

表3-5-1 愛知青少年公園内の注目すべき触れ合い活動の場

名 称	利用者数 (人/年)	エリアの概要
1 冒険ひろば(アスレチック)一帯	730,000 (*1)	公園北東部に設けられた大すべり台を中心とするフィールドアスレチックコースと芝生園地からなるエリア。
2 大芝生苑一帯	930,000 (*1)	公園の正面入り口に近い箇所に広がる緩やかな傾斜を持った広大な芝生園地。野外ホールが整備されるほか、ベンチや木陰等が点在する。
3 児童遊園地・ジャブジャブ池一帯	500,000 (*1)	動物を模した、あるいは児童公園的な遊具等が点在する傾斜のある芝生園地とジャブジャブ池を中心とするエリア。付近には「児童総合センター」や「ゴーカート」等の主に児童を対象とした有料施設が整備される。
4 日本庭園	20,000 (*1)	別名「かえで池庭園」の名のとおり、かえで池畔に整備された日本庭園。流れや木道が整備される。公園内の池が基本的に立入禁止とされる中において、池への親水性が保たれた整備がなされている。
5 キワニスの森一帯	10,000 (*1)	公園中南部に整備された植樹帯。一部西洋庭園風の整備がなされた箇所もある。
6 キャンプ場	30,955 (*2)	宿泊キャンプにも対応した有料の野営施設。第1(公園北東部)、第2(中南部)の2カ所あり、テントサイトのほかに炊事棟、ファイヤーサークル等が整備される。第1が38張200人、第2が25張100人収容。キャンプ利用者以外の入場は不可。
7 ウォーキングコース	150,000 (*1)	公園内の園路を活用して設定された散策コース。コースは勾配等に応じて難易度設定を変えた「あじさいコース(2.0km)」、「さくらコース(3.5km)」、「かえでコース(2.0km)」、「かきつばたコース(4.0km)」の4コースからなり、沿道の花や紅葉等を楽しめる設定となっている。
8 オリエンテーリングコース	10,000 (*1)	常設オリエンテーリングコース。
9 サイクリングコース	79,738 (*2)	公園外周を通る1周5.2kmのサイクリング専用コース。沿道には都道府県木が植栽されるほか、随所に展望休憩舎が整備される。貸出自転車(有料)のほか、持ち込み車両の走行(無料)も可能。サイクリング利用者以外の入場は不可。

備考 ・公園内に存在する多数の池については、基本的に池畔への立入が制限されていることから、触れ合い利用は生じないと判断し、上記に含めていない。

・園路等の利用施設整備がなされていない公園南部の樹林地は上記に含めていない。

*1：利用者数はアンケート調査結果からの推定値。

*2：愛知青少年公園公表値(平成10年度実績)

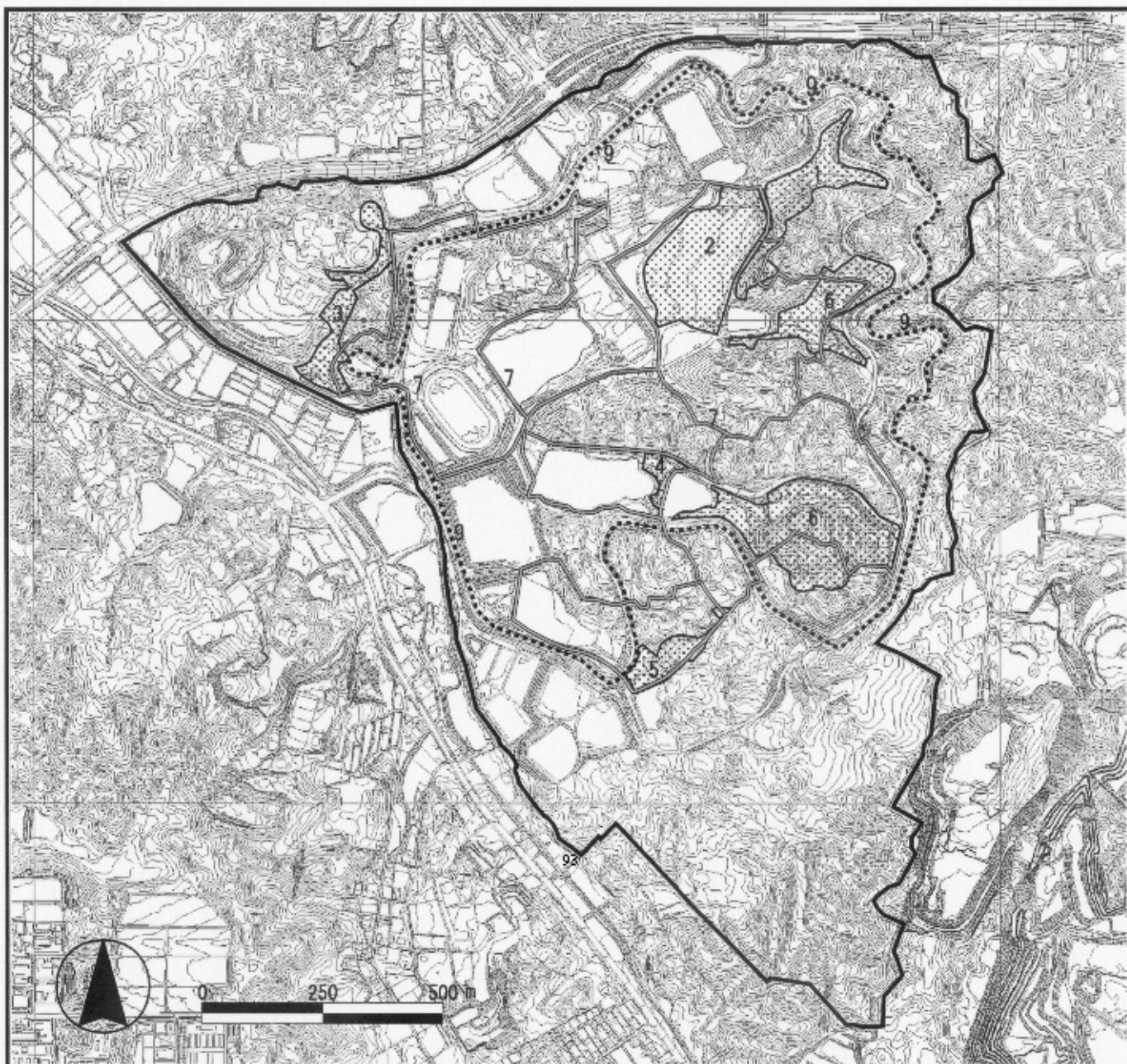






図3-5-3 注目すべき触れ合い活動の場

-  広場・園地等
-  園路（ウォーキングコース）
-  園路（サイクリングコース）
-  愛知青少年公園

No.	名称
1	冒険ひろば(アスレチック)一帯
2	大芝生苑一帯
3	児童遊園地・ジャブジャブ池一帯
4	日本庭園
5	キワニスの森一帯
6	キャンプ場
7	ウォーキングコース等の園路
8	オリエンテーリングコース
9	サイクリングコース

備考 ・ 図示した「広場・園地等」の範囲については、愛知青少年公園案内図、現地植生図、現地調査等に基づく概略的なものである。
 ・ 「8 オリエンテーリングコース」については位置を示しがたいため、図示していない。

(3) 愛知青少年公園内の注目すべき触れ合い活動の場の利用実態

現在までに行った愛知青少年公園利用者を対象とした計2回のアンケート調査、並びにカウント調査結果*に基づく愛知青少年公園内の注目すべき触れ合い活動の場の利用状況、利用者意識等は、次のとおり整理される。

*：実施したアンケート調査及びカウント調査の概要は次のとおり。

<第1回アンケート調査>

平成11年9月26日(日)実施。公園内の駐車場付近に調査員を配置し、青少年公園利用者(団体の場合は代表者)を被験者とした直接対面方式により、属性や公園内での一日の利用状況等を問うたもの。有効回答票数は492票、延べ被験者数2,473人であり、当日の推定入園者の約17.6%と推定。

<第2回アンケート調査>

平成12年5月14日(日)実施。公園内の各注目すべき触れ合い活動の場に調査員を配置し、実際に触れ合い活動を行っている公園利用者(団体の場合は代表者)を被験者とした直接対面方式により、属性や各々の活動の場での利用内容、印象等を問うたもの。有効回答票数は436票、延べ被験者数2,107人であり、当日の推定入園者の約14.5%と推定。なお、調査地点とした注目すべき触れ合い活動の場のうち、「オリエンテーリングコース」については、有効回答が得られなかった。

<カウント調査>

平成12年6月4日(日)実施。調査内容・方法は次のとおり。

注目すべき触れ合い活動の場の利用者数カウント

青少年公園内の注目すべき触れ合い活動の場及びその入入口、主要な交差点、回遊バス停、19地点に調査員を配置し、15分を単位時間として公園内の主要園路等の通行者数及び広場等の滞留者数の実数をカウント。

注目すべき触れ合い活動の場の活動実態の目視確認調査

利用者が多いと想定される「大芝生苑、冒険広場、児童遊園地、ウォーキングコース」を調査員が巡回し、典型的、特徴的と思われる利用状況を目視観察し、必要に応じて写真撮影、利用者に対するヒアリングを実施。

ア 触れ合い利用者数

愛知青少年公園入園者の各注目すべき触れ合い活動の場の利用率は、図3-5-4のとおりであり、「大芝生苑」が50%を超えているのをはじめ、「冒険広場」「児童遊園地」等の比較的駐車場に近い空間的広がり大きい広場で高い傾向にある。

この結果に基づき推定される愛知青少年公園内の注目すべき触れ合い活動の場のいずれかひとつでも利用した入園者の割合(以下「推定触れ合い活動率」という)*¹は推定91.1%であり、愛知青少年公園における1日の推定入園者の9割強が何らかの自然との触れ合い活動を行っているとは推定された。

*¹ <推定触れ合い活動率>第1回アンケート調査における各サンプルの同伴人数から延べ被験者数を算定、これら被験者が先に抽出した愛知青少年公園内の注目すべき触れ合い活動の場のいずれかひとつでも利用した被験者の割合を求めた推定値。

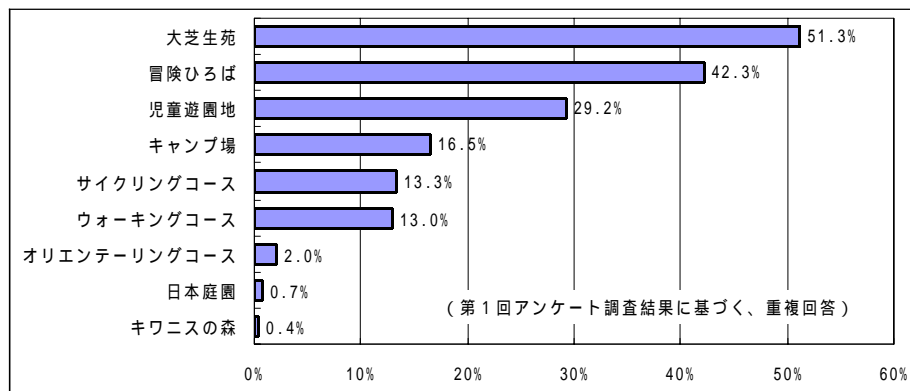


図3-5-4 愛知青少年公園入園者の注目すべき触れ合い活動の場の利用率

イ 各活動の場の利用実態

第2回アンケート調査及びカウント調査結果に基づく各々の注目すべき触れ合い活動の場の利用実態の特徴としては主に次の点が挙げられる。

- ・ 3～6人程度の小グループ、「小学生を含む親子連れ」や「青年層の友人（恋人）同士」の利用が中心となる。
- ・ 利用者の発地は、9割以上が愛知県、岐阜県、その過半が愛知青少年公園近傍の市町村である。また、平均到達時間は40分弱であることから、身近な触れ合い活動の場として利用されているものといえる。
- ・ 各活動の場の典型的、特徴的な活動内容としては、特定の利用様式を持たない『大芝生苑』『児童遊園地』等を中心に、「ピクニック、軽スポーツ、散歩・散策・ウォーキング、遊具を使った遊び、休憩・休息」等の多様な形態が見られる。
- ・ 各活動の場での滞留時間は比較的短く、利用者の多い「冒険ひろば、大芝生苑、児童遊園地」で2時間前後である。
- ・ リピーター率は全般的に高いが、利用頻度は「年に数回程度」が全体の3/4程度を占めている。

ウ 各活動の場に対する利用者の評価

各活動の場に対する利用者の評価は、表3-5-2のとおりであり、多くの場で「広い・日当たりがよい」「芝生がある」「周囲の緑が豊か」「周囲の眺めがよい」等が上位を占めており、公園の持つ自然環境が触れ合い利用者に評価されているものといえる。

表3-5-2 注目すべき触れ合い活動の場に対する利用者の評価（上位5位）

（第2回アンケート調査結果に基づく、複数回答）

順位	1位	2位	3位	4位	5位
全調査地点合計	広々としている・日当たりがよい 259(59.4%)	芝生がある 151(34.6%)	周囲の緑が豊か 143(32.8%)	周囲の眺めがよい 100(22.9%)	利用したい遊具や施設がある 99(22.7%)
冒険ひろば	利用したい遊具や施設がある 32(66.7%)	広々としている・日当たりがよい 21(43.8%)	芝生がある 14(29.2%)	周囲の緑が豊か 9(18.8%)	木陰がある 8(16.7%)
大芝生苑	広々としている・日当たりがよい 114(77.6%)	芝生がある 84(57.1%)	周囲の緑が豊か 46(31.3%)	周囲の眺めがよい 36(24.5%)	木陰がある 26(17.7%)
児童遊園地	広々としている・日当たりがよい 91(63.6%)	周囲の緑が豊か 47(32.9%)	利用したい遊具や施設がある 43(30.1%)	芝生がある 43(30.1%)	木陰がある 43(30.1%)
日本庭園	周囲の眺めがよい 12(80.0%)	周囲の緑が豊か 7(46.7%)	広々としている・日当たりがよい 4(26.7%)	その他 4(26.7%)	池などの水辺がある 3(20.0%)
キワニスの森	広々としている・日当たりがよい 7(58.3%)	周囲の緑が豊か 3(25.0%)	周囲の眺めがよい 2(16.7%)	芝生がある 2(16.7%)	木陰がある 2(16.7%)
キャンプ場	周囲の緑が豊か 4(40.0%)	広々としている・日当たりがよい 3(30.0%)	利用したい遊具や施設がある 2(20.0%)	その他の利用する施設から近い 1(10.0%)	歩道などの長さがちょうど良い 1(10.0%)
ウォーキングコース	周囲の緑が豊か 19(76.0%)	広々としている・日当たりがよい 7(28.0%)	歩道などの長さがちょうど良い 4(16.0%)	芝生がある 4(16.0%)	木陰がある 4(16.0%)
サイクリングコース	駐車場から近い 18(50.0%)	広々としている・日当たりがよい 12(33.3%)	周囲の眺めがよい 12(33.3%)	周囲の緑が豊か 8(22.2%)	利用したい遊具や施設がある 6(16.7%)

エ 愛知青少年公園における触れ合い活動の代替性

第2回アンケート調査結果に基づけば、愛知青少年公園内の各々の注目すべき触れ合い活動の場で行われている活動と同様の活動を行いうる他の公園等の有無については、図3-5-5に示すとおりであり、「大芝生苑、児童遊園地」等を中心に過半数が「ある」と回答しており、大半の場での活動については、他の公園での代替の可能性は高いものと考えられる。

ただし、「キャンプ場、サイクリングコース」では過半数が「ない」との回答であった。

なお、愛知青少年公園と同様の活動をしうる他公園の具体的な名称としては、以下の表3-5-3に示すとおりであり、愛知県森林公園（尾張旭市）、戸田川緑地（港区）、大高緑地（緑区）、牧野ヶ池緑地（名東区）等の愛知青少年公園近隣の公園・緑地等が挙げられた。

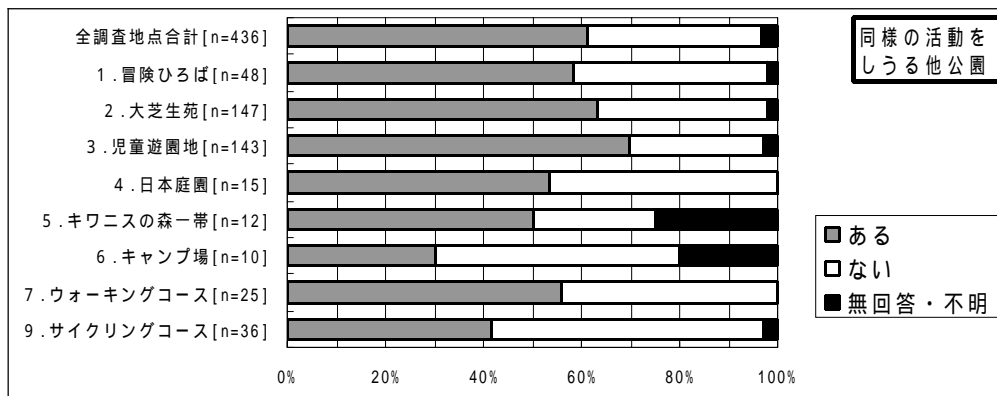


図3-5-5 各活動の場と同様の活動を行う愛知青少年公園以外の公園等の有無

表3-5-3 各活動の場と同様の活動を行う愛知青少年公園以外の公園等の名称（上位5位）
（第2回アンケート調査結果に基づく、複数回答）

順位	1位	2位	3位	4位	5位
全調査地点合計	愛知県森林公園 （尾張旭市） 60(13.8%)	戸田川緑地 （港区） 30(6.9%)	大高緑地 （緑区） 25(5.7%)	牧野ヶ池緑地 （名東区） 25(5.7%)	愛知こどもの国 （幡豆町） 18(4.1%)
冒険ひろば	愛知県森林公園 （尾張旭市） 10(20.8%)	牧野ヶ池緑地 （名東区） 4(8.3%)	愛知こどもの国 （幡豆町） 4(8.3%)	大高緑地 （緑区） 3(6.3%)	海南こどもの国 （十四山村） 3(6.3%)
大芝生苑	愛知県森林公園 （尾張旭市） 19(12.9%)	牧野ヶ池緑地 （名東区） 10(6.8%)	戸田川緑地 （港区） 9(6.1%)	大高緑地 （緑区） 9(6.1%)	小幡緑地 （守山区） 7(4.8%)
児童遊園地	愛知県森林公園 （尾張旭市） 21(14.7%)	戸田川緑地 （港区） 19(13.3%)	牧野ヶ池緑地 （名東区） 10(7.0%)	大高緑地 （緑区） 7(4.9%)	愛知こどもの国 （幡豆町） 7(4.9%)
日本庭園	庄内緑地（西区） 2(13.3%)	愛知県緑化セン ター（藤岡町） 2(13.3%)	愛知県森林公園 （尾張旭市） 1(6.7%)	大高緑地 （緑区） 1(6.7%)	愛知こどもの国 （幡豆町） 1(6.7%)
キワニスの森	愛知県森林公園 （尾張旭市） 3(25.0%)	大高緑地 （緑区） 1(8.3%)	鞍ヶ池公園 （豊田市） 1(8.3%)	東山公園 （千種区） 1(8.3%)	愛知県緑化セン ター（藤岡町） 1(8.3%)
キャンプ場	庄内緑地（西区） 1(10.0%)	城山公園 （尾張旭市） 1(10.0%)	白河公園（中区） 1(10.0%)		
ウォーキングコ ース	愛知県森林公園 （尾張旭市） 4(16.0%)	大高緑地 （緑区） 2(8.0%)	牧野ヶ池緑地 （名東区） 1(4.0%)	愛知こどもの国 （幡豆町） 1(4.0%)	鞍ヶ池公園 （豊田市） 1(4.0%)
サイクリングコ ース	愛知県森林公園 （尾張旭市） 2(5.6%)	大高緑地 （緑区） 2(5.6%)	愛知こどもの国 （幡豆町） 2(5.6%)	鞍ヶ池公園 （豊田市） 2(5.6%)	庄内緑地 （西区） 2(5.6%)

2 博覧会開催による影響

現計画における博覧会会場整備に伴う工事期間、博覧会会期中、及び会期後の再整備期間は、利用者の安全性確保のために愛知青少年公園の一部または全部の立ち入りを制限することとなる。

このため、工事及び会期中の閉園期間にあっては、公園利用者に対し、愛知青少年公園での触れ合い活動を代替しうる周辺の他の公園の利用を促すよう、関係機関とも連携の上、普及・広報活動に努めるとともに、代替の困難な一部の施設については関係機関に協力し、その確保に努力していくこととする。なお、工事期間にあっては、工事計画の最適化による全面閉園期間の最短化、部分開園時における利用者の安全確保に留意するものとする。

また、愛知青少年公園は博覧会の会期終了後も引き続き公園として利用されることから、今後の会場計画の検討に当たっては、愛知青少年公園の将来計画と極力整合のとれた計画となるよう、関係機関と調整を図っていくこととする。

第6節 廃棄物の現状と博覧会開催による影響

1 廃棄物の現状

(1) ごみ処理の状況

長久手町のごみ処理の状況は表3-6-1に示すとおりであり、ごみ処理施設搬入量は収集人口とともに徐々に増加している。平成10年度の長久手町民1人1日あたりの排出量は、約1,060gである。

表3-6-1 ごみ処理の状況

(単位：t)

年 度	計 画 収集人口	ごみ処理 施設 搬 入 量	直 営				許可業者	直接搬入
			総搬入量	可 燃 物	不 燃 物	資 源		
平成5	33,446	12,451	7,577	5,906 (4,837)	1,543	128	4,227	647
6	34,281	13,086	8,248	6,341 (5,159)	1,780	127	4,151	687
7	35,160	13,255	8,266	6,864 (5,342)	1,015	387	4,394	595
8	35,994	13,629	8,518	7,318 (5,673)	703	497	4,490	621
9	37,329	14,129	9,211	7,713 (6,464)	793	705	4,308	610
10	38,375	14,862	9,862	7,436 (6,199)	911	1515	4,159	841

(注)表中の()内の数値は業者委託分

(出典)「ながくての統計 平成12年版」(平成12年3月 長久手町)

(2) ごみ処理施設の整備状況

次に、長久手町が加入する尾張東部衛生組合の、ごみ処理施設の整備状況は表3-6-2に示すとおりである。

尾張東部衛生組合は、瀬戸市、尾張旭市、長久手町の2市1町で構成され、平成2年に粗大ごみ処理施設を、平成4年にごみ焼却施設を設置し稼働している。平成10年度のごみ焼却施設における処理実績は、78,796トであった。

表3-6-2 廃棄物等の処理施設の整備状況

【ごみ処理】						
設 置 主 体		ごみ焼却施設		粗大ごみ処理施設		
名 称	組合の構成市町村名	炉数	処理能力 (ト/日)	施設数	処理能力 (ト/日)	
尾張東部 衛生組合	瀬戸市、尾張旭市、 長久手町	3	324	1	50	

(出典)「平成11年版環境白書」(平成11年12月 愛知県)を基に作成

2 博覧会開催による影響

(1) 廃棄物処理の基本的な考え方

博覧会においては、展示施設、飲食施設、物販施設、管理施設等から表3-6-3のとおり様々な廃棄物の発生が見込まれる。

博覧会における廃棄物処理は、第一に発生抑制、次いでリユース・リサイクルの実施、そして最終的に処理せざるを得ない廃棄物についての適正処理を基本とする。

新聞、雑誌等の会場内への持ち込みや使い捨て容器の制限あるいは簡易包装の励行などの発生抑制策を現在策定中のE X P Oルールを取り組みと連動させて検討するとともに、リサイクル可能な廃棄物は、地域と連携してリサイクルシステムを構築し、できる限り資源物として活用する。最終的な処理を要する廃棄物については、周辺自治体、一部事務組合の協力を得るとともに、必要に応じて廃棄物処理業者に委託するなど適正な処理を行うこととする。

表3-6-3 会場で発生が見込まれる廃棄物の種類

廃棄物の種類	内 訳
一般入場者からのごみ	飲料容器、食器・包装類、残飯類、雑誌・パンフレット類等
パビリオン等からのごみ	展示・販売物の包装材、飲食施設からの厨芥類・廃油類、一般事務紙ごみ等
緑地・沿道樹木清掃ごみ	落葉等

(2) 廃棄物の発生量の検討

廃棄物の発生量については、現時点において過去の博覧会での推計値を参考とし、施設の利用方法が類似していると思われるテーマパーク等における調査を基に予測した。その結果は1人1日あたり457gとなり、会場で発生が見込まれる廃棄物の量は日量約50トと想定している。今後具体的に検討される発生抑制策やリサイクルを適正に実施することにより、最終的に場外で処分される廃棄物量を、発生量の約30%程度に抑制することを目標とする。

なお、会場内から発生が見込まれる廃棄物の質及び量については、今後開催される類似の博覧会等の結果を参考に更に精査する。

(3) 今後の保全措置の検討方向

- ・ 出展者や来場者が率先して環境配慮に取り組むE X P Oルール、エコラベル、ローカルイベントルールなどのソフト的な検討を進め、廃棄物の発生抑制に努める。
- ・ パビリオン等の建設にあたっては、再利用しやすい素材や構造の導入を検討する。
- ・ 生ごみについては、会場内の分離型コンポスト施設やメタン発酵施設での処理を検討する。また、バイオマスエネルギー源としての活用についても検討する。
- ・ リサイクル可能な廃棄物は、会場内にリサイクルセンターを設置し、選別・圧縮・梱包したうえで地域のリサイクルシステムにつなげる。
- ・ 積極的な再生品利用の促進方策を検討し、廃棄物の一層のリサイクルを進める。
- ・ ゼロエミッションを体感できる博覧会を目標に総合的な取り組みを進める。